日ごろの疑問にお答えします！

農園芸資材 Q&A

今回の回答担当は…
株式会社ハイポネックスジャパン
農芸プロダクツチーム　チームリーダー
高谷（たかや） 憲之（のりゆき）さんです。

Q 今話題のバイオスティミュラントってどんな資材ですか？

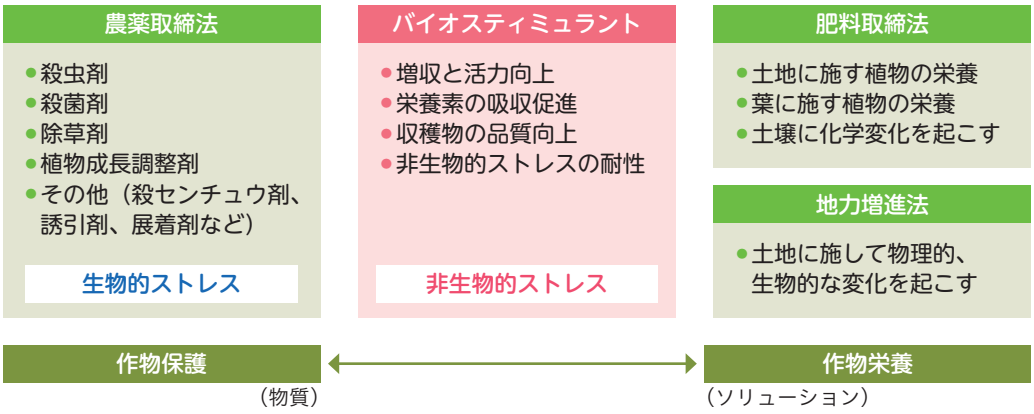
A

バイオスティミュラントは、栽培環境の劣悪化や化学肥料・農薬の多用、残留農薬などの懸念から持続的な農業に不安のある生産者側と、安心・安全な食べ物の供給を望む小売店、消費者側の両方向からの関心が高まっています。

ヨーロッパでも取り組みが始まって数十年ですが、近年、世界規模でバイオスティミュラントの使用量は増加しています。*2014年には世界で1400億円市場に達し、2021年には2900億円の市場に拡大する見込みがあるといわれています。

バイオスティミュラントとは、直訳すると「生物刺激剤」。植物やその周辺環境が本来もつ自然な力を活用することで、植物や土壌によりよい生理状態をもたらし、健全な植物の生育、ストレス耐性向上、収量、収穫後の品質や貯蔵性に、好影響を与えるさまざまな物質や微生物のことです。

なお、病害虫防除のための農薬、栄養を供給する肥料、土壌の物理性を改善する土壌改良材のいずれの法的範疇（はんちゅう）にもおさまらない製品カテゴリーになり、日本バイオスティミュラント協議会が発足され、現在整備が進められています。



Q バイオスティミュラントにはどんな種類がありますか？

A

有効成分、資材の原料（起源）、機能などさまざまな分類が存在します。一例として、資材の起源別分類例としては、①腐植質、有機酸資材（腐植酸、フルボ酸）②海藻および海藻抽出物、多糖類③アミノ酸およびペプチド資材④微量要素、ビタミン⑤微生物資材（トリコデルマ菌、菌根菌、酵母、枯草菌、根粒菌など）⑥その他（動植物由来機能性成分、微生物代謝物、微生物活性化資材など）。

先行しているヨーロッパの内訳では、海藻33％、フルボ酸・フミン酸31％、ビタミン・アミノ酸10％、微量要素10％、微生物10％、その他6％となっています。実はこれらは、日本の生産者が昔から使用しているアミノ酸液肥や微生物などがそれに該当します。ただ、科学的根拠のはっきりしないものが多いため、大学や研究所との連携、また材料の明確化などが重要となり、バイオスティミュラント協議会では、国内外含め情報の収集、商品の位置づけ、さまざまな知識の集約を実施しています。今後、バイオスティミュラント製品のより詳しいメカニズムの解明が進むと、資材の選定や効果的で効率のよい施用が可能になります。

高温、突然の干ばつ、曇天や雨天の長期化などストレスにさらされることが増えてきている近年ですが、こういった環境に対抗していくひとつの手段としてバイオスティミュラントを取り入れていくことはとても有効な手法で、持続的で安定的な農業生産につながっていくと確信しています。

バイオスティミュラント資材

ハイポネックスジャパン



← ライゾー
根張り促進型肥料。



→ ボンバルディア
有機活力液肥。



← マイコジェル
ジェル状超濃縮菌根化剤。

大興貿易



← スキーポン・アグリ
高温・乾燥対策に。



→ 腐植チャージ
腐植酸を約50％含有。

タキイオリジナル



→ タキイ　トレエース
トレハロース入り
微量要素肥料。

※日本バイオスティミュラント協議会ＨＰより